

## 《課題名》

### 転移性前立腺癌に対する治療方法および治療効果に関する検討

## 《研究対象者》

滋賀医科大学附属病院において 2025 年 10 月までに転移性前立腺癌と診断された患者

## 研究協力をお願い

滋賀医科大学において上記課題名の研究を行います。この研究は、対象となる方の滋賀医大で既に保有している臨床情報を調査する研究であり、研究目的や研究方法は以下の通りです。情報等の使用について、直接に説明して同意はいただかずに、このお知らせをもって公開いたします。対象となる方におかれましては、研究の主旨・方法をご理解いただきますようお願い申し上げます。

この研究への参加（情報提供）を希望されない場合、あるいは、研究に関するご質問は下記の問い合わせ先へご連絡ください。

### （１）研究の概要について

研究課題名：転移性前立腺癌に対する治療方法および治療効果に関する検討

研究期間： 滋賀医科大学学長承認日 ~ 2028 年 12 月 31 日

研究機関・実施責任者： 滋賀医科大学 泌尿器科学講座 和田晃典

### （２）研究の意義、目的について

#### 《研究の意義、目的》

遠隔転移を有する前立腺癌では内分泌療法が標準的な初期治療です。内分泌療法の主体であるアンドロゲン除去療法は、外科的去勢である両側精巣摘出術と薬物を用いた内科的去勢に分類されます。外科的または内科的内分泌療法によって去勢状態にあるにも関わらず、病勢進行や前立腺特異抗原（PSA：Prostate-Specific Antigen）の上昇が認められた場合に、「去勢抵抗性前立腺癌（CRPC：Castration-Resistant Prostate Cancer）」と呼びます。CRPC に対する治療選択肢は増えてきましたが、各薬剤の使用タイミングや投与順序については明確なエビデンスは存在しません。したがって、実臨床における治療内容とその成績を調べることは、今後の適切な患者選択、薬剤選択、および投与時期の決定にとって一定の意義を有すると考えられます。本研究は転移性前立腺癌に対する現状の各治療法、薬剤の治療効果、副作用を調査することを目的としています。

### （３）研究の方法について

#### 《研究の方法》

転移性前立腺癌に対して治療を行った患者の患者背景（年齢、治療前血清 PSA 値、臨床病期、Performance Status、治療前転移部位等）、治療後血清 PSA 値（投与後 4 週間毎）、治療継続期間、有害事象、転移巣画像検査等の治療成績について診療録より抽出し評価します。

### （４）個人情報の取扱いについて

#### 《個人情報の取扱いに関する記載》

研究にあたっては、個人を容易に同定できる情報は削除したり関わりのない記述等に置き換えたりして使用します。また、研究を学会や論文などで発表する時にも、個人を特定できないようにして公表します。

#### **( 5 ) 研究成果の公表について**

この研究成果は学会発表、学術雑誌およびデータベースなどで公表します。

#### **( 6 ) 研究計画書等の入手又は閲覧**

本研究の対象となる方は、希望される場合には、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で本研究に関する研究計画書等の資料を入手・閲覧することができます。

#### **( 7 ) 利用又は提供の停止**

研究対象者又はその代理人の求めに応じて、研究対象者が識別される試料・情報の利用（又は他の研究への提供を）停止することができます。停止を求められる場合には、下記（ 8 ）にご連絡ください。

#### **( 8 ) 問い合わせ等の連絡先**

滋賀医科大学 泌尿器科学講座 和田晃典

住所：520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町

電話番号： 077-548-2273

メールアドレス： [hquro@shiga-med.ac.jp](mailto:hquro@shiga-med.ac.jp)